

小野町地域農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

- ・中山間地域であり、農業体系は水稲と園芸・畜産・葉たばこ等との複合経営が大半を占めている。
- ・農業者の高齢化が進んでおり、それに伴う遊休農地の増加や後継者不足についても大きな課題を抱えているのが現状と考える。
- ・東日本大震災の原発事故の影響を受けている中、放射能に気を配りながらの営農を強いられ不安を抱えながらの農業経営が現在も続いている。

2 作物ごとの取組方針

- ・主食用米の需要が減少している中、適地適作を基本とした農作物の生産体制を整えながら産地交付金を有効活用し、需要が見込める作物の生産の維持・拡大をする。

(1) 主食用米

- ・現代の食文化の変化により年々需要が減少傾向にある中、需要に対応した計画的な生産を基礎に米の産地として「売れる米作り」を徹底し、販売先の確保に努める。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米

- ・輸入トウモロコシの代替原料として潜在的な需要が多くまた、需要が飽和気味となっている加工用米に代わる水稲で取り組むことができる転作作物として期待できる点から、産地交付金を活用し、生産性向上の取組や、安価な肥料の利用や直播栽培等の低コストに向けた技術の導入を検討し、生産拡大を図る。

イ 米粉用米

- ・地域（町）おこし等での利用を目的とした長期契約を結び、産地交付金を活用し、生産性向上の取組を行いながらニーズに合った数量に応じた作付の拡大推進を図り、6次化や不作付地の解消へと繋げる。

ウ WCS用稲

- ・地域の畜産農家との契約を継続しつつ、現行の作付面積を維持する。また、マッチング等を駆使し地域外の畜産農家と契約し面積拡大に繋げる。

エ 備蓄米

- ・主食用米に代わる作物として不作付地の解消に繋がることから、優先枠の確保に努め、産地交付金を活用し継続的な作付推進に取り組む。

(3) 大豆、飼料作物

- ・大豆については作付面積が少ない中であるが、県農業普及所や営農指導のもと安定生産・品質向上を目指し、今後についても現行の作付面積の拡大推進を図る。また、飼料用作物については、需要の拡大を図りながら作付面積の拡大推進を図る。

(4) そば

- ・高品質・安定した作付のもと、地域の需要者との契約に基づき現状を維持する。

(5) 野菜

- ・地域で作付が主流となっている振興作物を中心に、産地交付金を活用し生産技術や流通システムの確立等の産地形成を図り所得の増加へ繋げながら、不作付地を活用するなど作付の拡大を進める。

(6) 花き類

- ・所得の増加の為、産地交付金を活用し生産技術や流通システムの確立等の産地形成を勧め、あわせて不作付地の解消に向け作付の拡大を図る。

(7) 果樹類

- ・花き類同様に産地交付金を活用し生産技術や流通システムの確立等の産地形成を勧め、農地の荒廃を防止する。

(8) 景観形成作物

- ・上記花き類・果樹類と同様に産地交付金を活用し、農地の荒廃を防止する。

(9) 耕畜連携

- ・畜産農家との連携を図り水田の効率的な活用と粗飼料確保の為、飼料用米の稲わら利用、粗飼料生産水田での放牧に取り組む。

(10) 不作付地の解消

- ・現在、改善が必要な不作付地については約 60ha であり、耕作放棄地は年々増加する一方で、さらに深刻な状況である。解消法としては今後は非主食用米を中心に作付の拡大推進等に取り組むなどして、平成 30 年までに 3 ha 程度の解消を目標とする。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	平成 28 年度の作付面積 (ha)	平成 29 年度の作付予定面積 (ha)	平成 30 年度の目標作付面積 (ha)
主食用米	460	458	456
飼料用米	6.5	7.5	8.5
米粉用米	0.1	0.1	0.1
WCS 用稲	11.6	13.0	13.0
備蓄米	29.3	29.3	29.3
大豆	3.1	3.1	3.1
飼料作物	59	60	61
そば	0.5	0.5	0.5
その他地域振興作物	9.63	10.06	12.35
・野菜			
・いんげん	0.6	0.6	0.7
・さやえんどう	0.11	0.11	0.2
・トマト	0.84	0.84	0.9
・ピーマン	0.45	0.45	0.5
・ブロッコリー	0.0	0.03	0.05
・葉たばこ	4.3	4.3	4.3
・ネギ	0.07	0.07	0.1
・かぼちゃ	0.96	0.96	1.0
・さといも	0.07	0.07	1.0
・ばれいしょ	0.03	0.03	0.5
・しいたけ	0.76	0.76	0.80
・にんにく	0.0	0.4	0.7
花卉			
・花木	0.77	0.77	0.8
景観作物			
・菜の花	0.23	0.23	0.3
・ひまわり・コ スモス	0.44	0.44	0.5
	579.73	581.56	583.85

4 平成 29 年度に向けた取組及び目標

取組番号	対象作物	取組	分類※	指標	平成 28 年度 (現状値)	平成 29 年度 (目標値)
1	新規需要米 (米粉用米)	生産性向上の 取組	ア	取組面積	(0.1ha)	(0.1ha)
2	さやいんげん	地域振興作物 による産地形 成	ア	作付面積	(0.6ha)	(0.6ha)
2	さやえんどう	地域振興作物 による産地形 成	ア	作付面積	(0.11 ha)	(0.11 ha)
2	トマト	地域振興作物 による産地形 成	ア	作付面積	(0.84 ha)	(0.84 ha)
2	ピーマン	地域振興作物 による産地形 成	ア	作付面積	(0.45 ha)	(0.45 ha)
2	ブロッコリー	地域振興作物 による産地形 成	ア	作付面積	(0.00 ha)	(0.03ha)
2	葉たばこ	地域振興作物 による産地形 成	ア	作付面積	(4.3ha)	(4.3ha)
2	にんにく	地域振興作物 による産地形 成	ア	作付面積	(0.0ha)	(0.4ha)
3	新規需要米 (飼料用米)	生産性向上の 取組	ア	作付面積	(6.5ha)	(7.5ha)
4	飼料用米の 生産圃場の 稲わら	(耕畜連携) わら利用	ア	取組面積	(3.0 ha)	(3.0 ha)
5	飼料作物	(耕畜連携) 水田放牧	イ	取組面積	(0.06ha)	(0.07ha)

※「分類」欄については、実施要綱別紙 15 の 2 (6) のア、イ、ウのいずれに該当するか記入してください。(複数該当する場合には、ア、イ、ウのうち主たる取組に該当するものをいずれか1つ記入してください。)

- ア 農業・農村の所得増加につながる作物生産の取組
- イ 生産性向上等、低コスト化に取り組む作物生産の取組
- ウ 地域特産品など、ニーズの高い製品の産地化を図るための取組を行いながら付加価値の高い作物を生産する取組

※平成 30 年度以降の目標値を設定している場合は、「平成 29 年度 (目標値)」欄の右に欄を設け、目標年

度及び目標値を記載してください。

※現状値及び目標値が単収、数量など面積以外の場合、()内に数値を設定する根拠となった面積を記載してください。

5 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり



平成29年度 産地交付金助成対象作物一覧

小野町地域農業再生協議会

使 途	対 象 作 物	分 類	単 価(円/10a)
地域振興作物助成	さやいんげん	野菜	10,000
	さやえんどう	野菜	10,000
	トマト(加工用トマト・ミニトマト含む)	野菜	10,000
	ピーマン	野菜	10,000
	ブロッコリー	野菜	10,000
	にんにく(黒にんにく)	野菜	10,000
	葉たばこ	その他	10,000
一般作物助成 (Aグループ)	かぼちゃ	野菜	10,000
	なす	野菜	10,000
	ねぎ	野菜	10,000
	さといも	野菜	10,000
	ばれいしょ	野菜	10,000
	しいたけ	その他	10,000
	きく(小菊含む)・りんどう	花木	10,000
	りんご・ぶどう	果樹	10,000
一般作物助成 (Bグループ)	景観形成作物(コスモス・ひまわり・菜の花)		5,000
米粉用米助成	米粉用米		13,000
飼料用米助成	飼料用米		5,000
耕畜連携助成	耕畜連携(飼料用米の稲わら利用)		6,000
耕畜連携助成	耕畜連携(水田放牧)		5,000